

はつらつ座安っ子



【学校だより: 令和2年10月 第10号】
豊見城市立座安小学校 校長: 具志直哉

なかよく かしこく たくましく

～主体的に他者と協働し、豊かな学び方を身に付け、夢や目標を持って生きる子～

座安小学校の全職員は、子どもたち1人ひとりを認め、受け入れ、持っている「可能性を拓き伸ばす教育」の実践をめざし、全力でがんばります！

2学期スタート！



2学期がスタートしました。今年度は秋休みがなく、1学期終業と2学期始業という節目の切り替えは、たった2日間の土日を挟んだだけとなりました。けれど不思議なもので、終業の日も始業の日も子ども達や先生方が制服に身を包み登校（出勤）すると、いつもよりもキリッと身が引き締まるものです。校内を巡視していても、いつもと違う静けさと節目を迎えた厳かさが伝わってくるのです。終業・始業のセレモニーは校内放送による3分間の校長あいさつのみでしたが、キリッとしまった中で1学期を終え、2学期を迎えられたことは、とても良いことであり、コロナ禍の中でも子ども達とともにより良い教育活動をしていくぞ！という2学期の意欲へとつなげることができました。

保護者の皆様、制服へのご対応ありがとうございました。

あいさつあふれる座安小に！ ～これこそ家庭との連携が必要です～

明るく素直でがんばりや！そんなすばらしい座安っ子たちにも、2学期を迎えて、これはがんばらないといけない！ということがあります。

それは「あいさつ」です。

保護者アンケートには、（お子さんは）「自分から進んであいさつができる」という質問項目があります。この質問に「よく当てはまる」と回答した保護者は、平成30年度は19%、平成31年度（令和元年度）は21%しかありません。「やや当てはまる」とあわせても、30年度



は56%、31年度は61%でした。

この数値は、朝、子ども達の登校の様子と類似しています。朝の登校で、自分から進んであいさつする子は、約1～2割（20%はいません）程度です。また、こちらからあいさつすると、あいさつを返してくれる子が4～5割くらいなのです。あいさつしないことは悪いことではありません。けれど半数以上の座安っ子たちが、「おはようございます」が言えず、首をたてに振るだけだったり、何も言わず目も合わせてくれなかったりすると、朝から元気が出なくなったり、心配になったりします。大きな課題だなあと思いながら、1学期を過ごしてきました。

「おはようございます！」「こんにちは！」「さようなら！」などのあいさつは、友だちをつくったり、なかよくしたりなど、学校や地域、社会で楽しくそして幸せに生きていくために人が身に付けなければならない**基本中の基本の礼儀**です。「あいさつ上手」な人ほど、周りから好かれます。「あいさつ」は、好感度が高い人、簡単に言うと、人から好かれ、信頼されている人に共通してできていることなのです。

保護者の方も、あいさつは大切な礼儀であること、お子様にはしっかりあいさつ上手な人になってほしいと願っていることと拝察します。やーなれーるふかなれー（家での言い方や習慣は、外に出た時に表れる）です。以下の「あいさつのテクニック」は学校においては2学期の重点的課題として徹底指導していきます。**家庭でも取り組んでくれませんか。**学校と家庭が連携し、同じ取組をすることで、あいさつ上手な座安っ子へと育てていってほしいです。



<座安小で2学期に取り組む「あいさつの3つのテクニック」>

ポイント①…「明るい声で、はっきりとした言葉で」

* “はっきり” というのは、大声という訳ではなく、“相手にとってはっきりと聞き取れる” 声のことです。

ポイント②…「相手の目を見る！ アイコンタクト！」

* 目を相手に向けることなくあいさつしてしまうと、“私のことが嫌いなのかな？” という悪い印象を与えてしまいます。

ポイント③…「立ち止まって軽くお辞儀をする」

* 子ども達はおじぎがなかなかできません。頭だけが傾くだけのことが多いです。背筋を伸ばし腰を軸におじぎの練習をご家庭でも！

本日もいつものように、各教室の授業を参観しながら、校内巡視を行いました。ある教室をのぞくと、2学期の目標を決めています。黒板にはあいさつの文字が！今朝は、あいさつの大切さなどについて子ども達にも伝えただけ。さっそく目標にあげています。元気で、素直で、頑張りやの座安っ子だから、きっとあいさつ上手に生まれ変わっていくと思います。

